

# とらりあんぐる菅生

<http://sugao-ky.hp.infoseek.co.jp>

E-mail:toraianguru@mx81.tiki.ne.jp

## 昨年度に引き続き 菅生中学校全生徒 アンケート実施!

菅生中学校区地域教育会議では16年度から地区の小中3校に働きかけ、子どもや保護者を対象としたアンケートにより教育の向上を支援してきました。

### ◆全校生徒アンケート実施の意味◆

昨年10月に菅生中学校全生徒に、授業を行っている先生の教え方、説明の仕方などと、子どもたちの授業に対する準備、聴き方など10項目にわたって4段階のチェックをしてもらいました。この試みは平成18年度に始まり今回で2回目です。今まで先生側から生徒への評価はありましたが、全生徒約450名が同じ条件の下で応えた先生への評価は全くなかったと思います。そしてその集計結果は全ての子どもたち、保護者にお返ししています。

このアンケートの結果には興味深いものがありますが、実際の授業そのままを反映しているとは限りません。というのは、授業を行う側と受ける側では、意図・認識においてズレがあるからです。しかしここで大事なことは、学校と子どもと保護者と地域住民がこ



の結果を共有し、どうしたらよりよい学校運営ができるのかを共通テーマに、それぞれの人たちの知恵を集め次につなげるための大きな資料として活用しようとしている点です。またこれを成し得るものこそ地域の総合力です。地域教育会議・PTA・菅生中学が協働し、全生徒により行われた今回のアンケート調査はその第一歩と言えます。

子どもたちの声を真摯に聞き、反省すべきは反省して次の授業に活かしていこうとする菅生中学校の姿勢は高く評価できます。そして菅生地域の保護者・住民から、地域の公立学校として信頼を寄せるに値する学校になりつつある、という手応えを感じています。

菅生中学校区地域教育会議 生涯学習委員長

工藤文比古

## 2007年度公開学習の課題から

## もっと分かりやすい生徒への評価・評定の取り組み

昨年8月29日に開催した、公開学習会「地域と学校が動き出す」の「評価・評定」分科会において、教師、保護者の間で評価についての認識にズレがあることが分かりました。保護者の代表的な意見として“おとなしい子ども、授業中積極的に手を挙げられない子どもは評価が低いのではないか…”がありますが、このことは保護者の間では以前からずっと言われていることで、教師の側がいくら否定しても払拭されません。今回のアンケートにおいても複数の子どもたちが、“先生のひいきがある”と答えていました。これらは、現状の評価が客観性に乏しく、生徒自身が自分の評価を精査できるようなシステムになっていないからではないでしょうか。

また、子どもたちが自分の評価について客観的に判断できる材料は、定期試験と提出物への評価くらいで、努力しやすいのもその2点です。それ以外の評価の部分は子ども側からは見えづらく、見えない部分は頑張りようがありません。手立てが分からないのです。評定は複数の評価の総合で決定するため、頑張ったのに評定がよくないと感じることもあります。それは、子どものやる気を削いでしまうことにもなりかねません。

評価・評定は、子ども自身を客観的・総合的に映しだし、その子にとっては伸びていくための評価であってほしい。何より生徒自身が自分の成績に納得することができ、また自分の意思と努力で成績を主体的にコントロールできるようになってほしいと思います。

生涯学習委員会では、現在の評価・評定についていくつかの提案をさせてもらいながら、生徒、教師、保護者が納得できるような評価システムの形を学校と一緒に作っていかれたらと考えています。(生涯学習委員)

稗原小

## 心ひとつに稗原太鼓

子どもから子どもに伝える太鼓の響き

稗原太鼓の始まりは、創立 10 周年のときに3代目校長の松島勇先生が「元気な子を育てよう」と提案し、太鼓を寄贈したのが始まり。総合的な学習の時間として続けられている。

当初は、講師に依頼し指導してもらったが、一時は中断も余儀なくされた。しかし止めてしまえばそれまでと、先生方の熱意が続ける原動力になっている。

菅生神社のお祭や宮前区の連合音楽会には、4年生全員が法被姿で披露。この日のために心をひとつにすることを学び、最後の一打ちで音がひとつになったときの達成感と充実感を味わった子の顔は、自信に満ち晴れ晴れとしているという。皆で達成感を味わった子は、仲間意識が身につき、いじめがなくなって、前向きに取り組む姿勢も現れているとのこと。

毎年、現4年生は、新4年生に稗原太鼓を教え、「元気な子」は今も確実に育っている。

菅生小

## 40周年おめでとう!!

11月3日 記念式典・祝賀会開催

菅生小の体育館で40周年の行事が盛大に行われた。全校児童出席の式典では、子どもたちによる作文朗読・歌・太鼓と群読が演じられ、その堂々とした姿が印象に残った。この日のために練習を重ねたであろう子どもたちは、臆することなく自信に満ちており、かつ、のびのびとしていた。

祝賀会では体育館を埋め尽くす大パーティが催された。こちらはうって変わった華やかさ。菅生小の先生方のバンド演奏、稗原小の先生も飛び入りでギター片手に歌うなど大盛り上がり楽しい会となった。

学校の敷地や通学路のために田畑を提供したり、周辺整備のために行政各所を相手に奔走したりと、この地に地域住民の力で小学校を誘致して40年、地域とともに歩んできた菅生小の周年行事は、いわば地域のお祭りのようなものであるのかもしれない。

菅生小40歳おめでとう!

菅生中

## 地域学習でフィールドワーク

### 学校から地域へ向けて

### もっと知りたい 私たちの街

菅生中学校1年生の総合的な学習の時間は、菅生の地域についてさまざまな視点からとらえ、実際に事業所、施設などを訪ね検証し、地域への理解を深めようという試みが行われた。

第1段階＝菅生周辺の様々な場所をピックアップし、班ごとに実際訪ねてみて調査した結果を発表。

第2段階＝調査の結果をもとに、たくさんの訪問場所を産業・歴史文化国際・教育・生活・自然・福祉、という6つの領域に分類し、生徒たちの興味関心を尊重できるよう、自分をもっと調べてみたい事業所、施設などをアンケートにより決定。11月14日の午前中、班に分かれ各場所を訪問。気づいたこと、分かったことなどをメモしながらのフィールドワークを実行。

訪問先では、その特徴をより深く理解するために、見学したり、お話を伺ったり、資料をいただいたりした。質問する際の観点として、○いつ設立されたか(始まったか) ○仕事のやりがい(楽しみ、大切なこと) ○環境への配慮 ○将来の菅生のための役割や変化に  
<ご協力いただいた各事業所など>

についての考え…などに留意し、自分の考えも伝えてみることも目標とした。子どもたちは、積極的に地域を知ろうという意気込みで臨み、それぞれの訪問先も、忙しい時間を割き子どもたちの思いに答えてくださった。

病院を訪ねた子どもたちは、ふだんは見ることでできない医療設備、機器に驚き、その重要さや地域への貢献度を実感した。また、幼稚園を訪問した子どもたちは、先生方が園児をかわいがる姿に心から感心したり、保育士が、なりたい職業の候補になったりと、職業そのものへの関心を引き起こす役割も果たした。

この学習のねらいには、「30年後の菅生」というキーワードもあった。学習内容から、将来的な展望へと発展させて、30年後(自分たちが今の親たちぐらいの年齢になったとき)、菅生がどのように変わっているのかを予想し、自分たちはそこで何ができ、どんな役割を担うようになるのかということも含めて考察したことには大きな意義があったようだ。

産 業	東洋エレント	北部市場	ウインファーム	カニエ	市バス鷺ヶ峰営業所
歴史文化国際	菅生神社	白樺神社	国際交流センター	日本民家園	岡本太郎美術館 地名資料室
教 育	菅生小学校	稗原小学校	みどり幼稚園	聖マリアナ看護専門学校	初山幼稚園 県立生田高校
生 活	JA せけ菅生支店	犬蔵消防訓練所	蔵敷交番	川崎国際ゴルフ場	宮前スポーツセンター
自 然	平瀬川	菅生緑地	とんもり谷戸	平瀬川流域協議会	生田緑地 水沢の森
福 祉	子育て支援センター	聖マリアナ医大	菅生子ども文化センター	介護施設鷺ヶ峰	障がい者支援施設みずさわ

こどもの権利って?

# 自分らしく生きていくために

— 菅生中学文化教室から —

菅生中学校区地域教育会議では、子どもたちに向けた活動の一つとして、菅生中の文化教室において「子どもの権利」についての講座を開いています。今年度も10月27日(土)9時から11時30分まで11人の生徒たちとクイズやワークショップをやりながら「子どもの権利」について考えてみました。

はじめに、「国連子どもの権利条約」や「川崎市子どもの権利に関する条例」についてクイズ形式で簡単に学んだあと、日常生活の中で「子どもの権利」を行使しているだろうか、または守られているだろうか、「権利とわがままの違い」など考えてみました。

友だちや親、学校、地域の大人、社会などとの関わりからいろいろな問題が浮かびあがってきました。例えば、「休日は家でもっとゆっくりしたい」、親に対しては「きちんと話を聞いて」、学校や先生に対しては「他の学校と比べないで」、友だちからは「何度も嫌がらせを受けた」など差別を受けない権利、名誉やプライバシーが守られる権利、教育、休息・文化・芸術を受ける権利といった当たり前のことが守られていません。

生きていく上で子どもたちの成長に欠かせない子どもの権利を、まず大人が理解することが求められています。「権利の前に義務はどうしたの?」などと言わずに、子どもの言い分をまず聞き、大人としてきちんと話し合うことが大切。自分の権利を主張することは、他人の権利も守ることを前提に、子どもをひとりの人間として尊重することから始めてみましょう。

## 中学生の意見をピックアップ

○休日には

「遊びたい」「コンサートに行きたい」「家でもっとゆっくりしたい」

○友だち関係では

「授業に集中したいのに周りがうるさい」「誰かに出会い系

サイトに登録された」「何度も嫌がらせを受けた」「変なうわさを立てられた」

○親や家族に対して

「八つ当たりしないで」「約束を守って」「意見も聞かずに文句を言わないで」「きょうだいゲンカで叱られるのはいつも自分」「姉は買ってもらえるものが多いのに、私はおさがりばかり」「なにをがんばっても誉められない」「規則が多い」

○学校・先生に対して

「人と比較しないで」「名前があるのに、お前と呼ばないで」「他の学校と比べないで」「生徒の気持を傷つけないで」「生徒の意見に対し文句を言わないで」「試合に勝ったら誉めて」「授業がつまらない」「規則が多い」「練習試合が多すぎる」

## 講座を受けた子どもたちの感想

○自分の意見を書き、悩んでいることを真剣に考え、解決法を気づかせてくださり、考えが深まった。(1年)

○まずは話し合いをして自分の気持ちを分かってもらおうと思いました。(1年)

○自分の権利と同時に他の人の権利も知ることができた。お互いに言い合うことでスッキリできたように思う。友だちの権利も大切にしていきたい。(2年)

○子どもにもあれだけの権利があることにビックリした。みんな同じことを思っているのだと思った。これからは自分の権利と相手の権利を大切にしたい。(2年)

○自分の意見を紙に書き出すことで、気持ちがスッキリしたし、楽しくて意見がたくさんでた。1つずつ解説を入れてくれたので、すごく理解することができた。(2年)

## 「こどもの権利シンポジウム」開催

12月8日(土) 宮前市民館大会議室にて宮前区地域教育会議主催

宮前区地域教育会議中学校区連携部会でも「川崎市子どもの権利に関する条例」を受けて、中学生たちに考えさせるシンポジウムを開いた。区内7中学校区から15人の生徒会メンバーが集い、朝からグループ討議を行った後、地域の大人たちの前で、日ごろ自分が感じている大人への不満・自分の意見などを一人ひとり発表した。すべての子どもたちが、「今回初めて子どもにもこんなに明確に権利が認められていることを知った」と言い、「自分の権利を知ることにより、他人の権利も認め、責任ある行動をとりたい」「今はまだ子どもの権利を知らない親や周りの大人たちにも知らせる活動をして、いつか自分たちが大人になったとき、子どもの権利を守れる社会を築いていきたい」など、発展的な意見を聞くことができた。これに対して聴衆の大人たちからは、「子どもたちがこんな不満を感じているのを初めて知った」「子どもたちがこんなきちんとした考えを持っているのに驚いた」また「もっといろいろな子どもの意見を聞いてみたい」「こういった機会をたびたび持ってほしい」など、ほとんどの参加者から多くのアンケートが寄せられた。

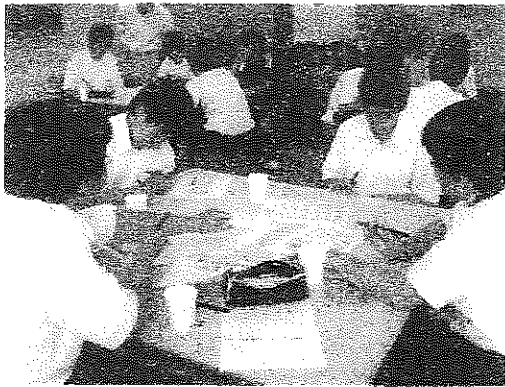
子どもの権利を知らないのは、子どもも大人も同様のようである。また、今回の大人たちの反応を見るに、子どもの考える能力に対してはどうも大人は認識不足のようである。子どもは決して「こどもっぽく」はない。十分な知識が得られれば、大人以上に建設的な意見となる。このシンポジウムはこのことを大人たちに知らしめるチャンスになったのではないかと感じた。

～このまちからゴミをなくしたい～

子どもの視点でまちづくりを考えようと進めている菅生中学校区子ども会議。中学生が実行委員となって、「まちからゴミをなくしたい」と、小学生も参加できる活動にしたいと考えています。

昨年5月24日にはファシリテーターの大枝奈美さんをお招きし、「まちづくり やってみたいこと」のワークショップで、イメージを広げました。部活や学校行事のため、話し合う時間が少ないなかで、3月半ばに、平瀬川で遊び、ゴミを集めてきて創るゴミアートや、落ち葉を集めて焼き芋やトン汁を作って食べることを企画。楽しみながらゴミについて関心を持ってもらいたいと模索しています。実行委員も募集中です。ちょっとおもしろそうだと思う中学生は気軽に参加してね！

問合せ：菅生中・辻先生、事務局・生駒 (TEL977-9306)



第一回みやまえ映像コンクール

菅生中 2作品受賞

2月2日

昨夏に「中学生の出番」を掲げて始まった手づくり映画の体験は、独自制作を含めて10作品。(主催/宮前「くみん・シネマ」実行委員会・宮前区役所)

千葉茂樹審査委員長(映画監督)は、「どの作品も中学生の域を越えた素晴らしいできれば優劣はつけがたい」と称賛された。

菅生中の子どもたちがチャレンジした2作品は、「落書き戦隊ケスンジャー活動記」(佐藤利也君制作)が「宮前区長賞」、「宮前消防署」(出倉吏君制作)が「宮前「くみん・シネマ」実行委員会賞」に輝いた。

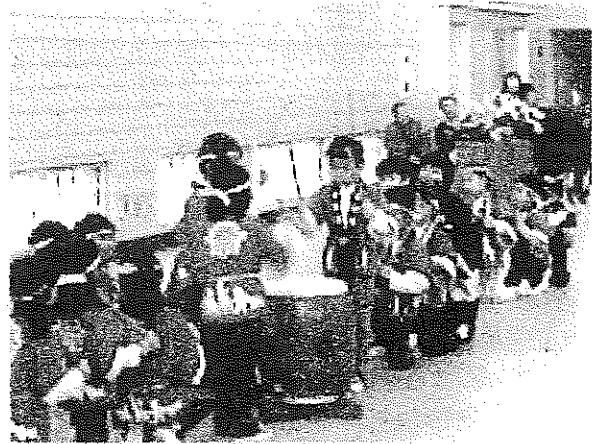
会場は参加者110名を超える大盛況で、主催者が「日毎に協賛の団体・企業が増え、全作品に賞状と図書券を渡せることになった」と発表した通り、宮前の中学生を応援しようと暖かい熱気に包まれていた。

圧巻は、最後に子どもたちが大スクリーンの前に並び、賞状を胸に報道関係者の注文に答えて、何度もフラッシュを浴びていたその嬉しそうな笑顔。後日様々な新聞・タウン紙・webなどにその笑顔が掲載された。

大下区長は、「全作品をDVDにして区内の小中学校に配布する」と明言され、区役所に申し込みれば、貸出もされる。会議の前にちょっと見るのもいいのでは。

菅生音楽祭 大盛況

今年3年目を迎えた地域教育会議主催の菅生音楽祭は、菅生中学校のご好意により広い体育館に会場を移した。この菅生中学校をはじめとする小学校や保育園・地域のクラブなど10の団体の方々が、音楽や踊りなどすばらしい演目を披露してくれた。トン汁や災害米も好評で完食。参加者・観衆合わせて400名と大盛況のうちに幕を閉じた。このたび多大なご協力をいただいた中学校の先生方や生徒さん・地域ボランティアの方々から心より感謝いたします。



編集後記

PTAの校外委員から地域教育会議の情報委員を引き受けました。初めて広報紙「とらいあんぐる」菅生四三三の編集会議に出たのが昨年六月でした。当時の私は「情報委員でなに？」「とらいあんぐる？」「以前からいる編集委員はどういう方々？」と「？」だらけ…。その後も何回かの会議、作業に参加し「とらいあんぐる」も四三三号、四四号と発行されました。私が携わったのは校正と印刷くらいでしたが、時間の終つのは早いものでこの四五号が私の任期内最後の「とらいあんぐる」となりました。

この時期になって、やっと私にわかったことがあります。「とらいあんぐる」とは学校を取り巻く地域の動きを保護者の方々、地域の方々にお伝えする広報紙です。だったら学校の校外委員から出ている私は、情報委員会と中学校のパイプ役ができたのではないかと…。ということ。おかげさまで「とらいあんぐる」は「こんな活動が学校であって…」とかでいいのです。だって「とらいあんぐる」を発行するにあたって記事の情報も広く、新鮮で、多いほうがいいのですから。これから情報委員を引き受ける保護者の方々、どうぞ音楽に会議に参加して学校の様子をお話したい。情報委員会の方々は大歓迎されると思います。(M)